“ エネルギーの転換“

2012年8月、日本

抗議活動: 関係者、動機と成功
教訓から学んだこと

ライナー・ブラウン 国際反核法律家協会事務局長
およびドイツ支局長

反核運動とはどんなものなのでしょうか?

社会運動

原則として原子力の民事
（および軍事）利用を
拒否する人と組織

bürgerinitiative umweltschutz
lüchow-dannenberg e.v.

IPPNW

BÜNDNIS 90
DIE GRÜNEN

.ausgestrahlt
gemeinsam gegen atomenergie

GREENPEACE

campact!de
DEMOKRATIE IN AKTION

MÜTTER GEGEN ATOMKRAFT e.V.

BBU

X-tausendmal quer

AK.W.ENDE Bündnis für die sofortige Stillegung aller Atomkraftwerke

BUND
FREUNDE DER ERDE

Bündnis Anti-Atom-OWL (Ostwestfalen Lippe)
NIRGENDWO

ROBIN WOOD

NaturFreunde
DEUTSCHLANDS

緑の党とは?

緑の党

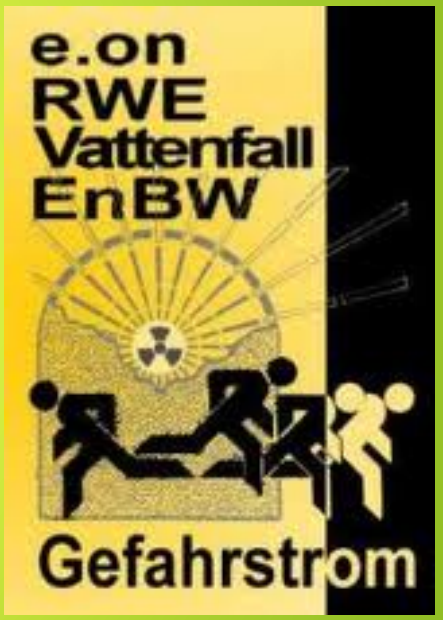
- 1980年に設立
- 今日でも成功を収めている政党
- 反核運動が設立の一端を担っていました

反核運動が必要な根拠

- 1953年にアイゼンハワー米大統領が国連総会で行なった演説「平和のための原子力」
- **1970年代の計画:** 全世界で**24000基の原子力プラント**、ドイツ国内に500基以上, (AEO、アメリカ原子力委員会 1973)

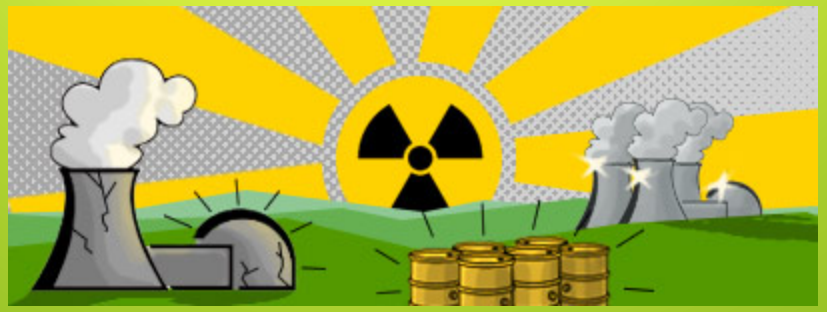
現状**:** 全世界で436、

ドイツ国内に 17



反対の根拠

1. 制御不可能で本質的に危険なテクノロジー:
   安全性: 壊滅的な被害をもたらす事故、放射能リスク
2. 永久に続く廃棄処分: 数百万もかかる核廃棄物処分
   ずさんな管理、武力紛争 (破棄処分エリア:
   （米国安全性工学協会）
3. テロの脅威: 航空機の衝突
4. 拡散拡張リスク: 核戦争
5. ウラン採掘: 持続性がなく非建設的



反核運動の歴史

- 提唱者たちの結束: 社会的少数派となった人たちの少数派に対する政策への抗議、仏国と米国
- „ヴィール原発 1975年: 農民と学生が原子力プラント建屋を占拠 → 象徴的な出来事
- 80年におよぶ抗議活動、「ヴァッカースドルフ」や「ブロックドルフ」や反核運動を象徴する地「ゴアレーベン」の抗議活動とも頻繁に連携

反核運動の歴史

- 歴史的な都市
  ハリスバーグ、チェルノブイリ、福島
- 2000年以降には閉鎖された原発もでて、市民団体のサクセスストーリーが続く
- 年ごとの潜在的な差異の活用 (上下動)

活動の範囲

- 広域、多種多様、多彩、非暴力 (?) 抗議
- 建家や現場の占拠
- 一般の関心を喚起
- 大勢の参加者でデモ、現場での活動
- „～に反対する母親たち“
- キャスターで搬送

活動の範囲

- 法律と科学: 経済関連機関、調査や査定ヒアリング
- 社会のあらゆる領域で: 聖職者、公益通報者
- ローカルレベルで発信してインターナショナルなレベルに（民主化運動の一部として）
- 広範に普及、多種多彩なし式をネットワーク化、– ローカル性、地域分散型、国内的、国際的

反動

- 中傷から警察によるテロ、内戦状態が話題に上がるまで1977/78、「核国家」(原子国家)
- 「光は消えない…」は嘘
- 民主主義の大解体と活動の自由に対する制限
- 科学機関と「緑の党信奉者」の新設

安価な核エネルギーの嘘

…市場論理に対する矛盾 – 正直な市場専門家が浮かばれなくなっている。国からの助成金がなければ、どの発電所も立ち行くことができない → 社会福祉を原発会社に再分配

- 1950年以降は、世界中で国からの助成金を研究開発に: 1兆米ドル (IAE資料)
- 核プラントの撤退 (ヴュアガッセン): 10億ユーロ
- ウランプラントの改善 (ヴィスムート): 130億ユーロまで
- 核廃棄物処理ゾーンの安全確保 (アッセ): 今日までで59億ユーロ
- 核融合炉 ITER: 今日までで107億、全世界で2007年までに283億ユーロ
- 失敗したプロジェクトに対する公債:「ヴァッカースドルフ」と「ハム・ウィントロップ」などのプラント再処理で: 90億ユーロ
- キャスター輸送 : 今日までで 30億ユーロ

代替案

省エネ、効率の良い再生可能エネルギー

- 再生可能エネルギーの勝利 – 今日では一般的に広く受け入れられており、議論も活発
- 議論の出発点は:「より良い生活」「持続性」「消費」「ライフスタイル」

原子爆弾

- aと言う者は、bといわなければならない。:
  核の廃止は、あらゆる核兵器を全廃するという理念位基づく核兵器禁止条約を意味するものである
- 今日にいたるまでの脅威の規模

論争の結果と成果

1. 最重要点:成果! 原子力の非合法化!
2. 世界中での新プラントの中止と防止
3. 一般人の自覚と参加と世代を超えた学習成果
4. 数カ国での脱原発: オーストリア、イタリア、ノルウェイ、アイルランド、オランダ、デンマーク、さらにはフィリピン、キューバ、他
5. ドイツ: テクノロジーの国: フェーズアウト（撤廃）1. と 2.

教訓から学んだこと

- 何百万もの人が生存権のために行動を起こし、抗議しながら生きるすべを習得しました: 民主主義の学習と経験（警察の棍棒も経験）
- 「利益が世界を統治する」–思慮深さと洞察力
- テクノロジーと持続性に関する議論に力点を置くネットワークと国際性
- 粘り強さ、創造性、発想の豊かさ
- 社会的多数派と「ラディカリズム」

法律と原子力

- 訴訟事件は進行し勝利しました – ペーター・ベッカー: 発電所プラント新設の中止と延期
- 行動と転換に根ざした法律
- 「再生可能エネルギー法EEG」 – 再生可能エネルギーを強化する法律
- エネルギー専門の法律家と科学者が抗議行動によって果たした貢献 → 社会全体に議論を巻き起こすことの重大な意味

太陽は抗議行動のシンボルです

代替案はどんな時でも必ずあるはずです –
それは私たち次第なのです